令和７年１１月１１日

芦屋市企画部市民参画・協働推進課
課長 山川　尚佳　様

（あしや市民活動センター指定管理者）
特定非営利活動法人あしやＮＰＯセンター
事務局長　　橋野　浩美

災害時対応セミナー事業報告書

１　実施日：１１月１日（土）１３：００～１８：３０　会議室Ｃ、Ｄ室
２　担　当：金子美保
３　参加者：１９人
４　講　師：長谷部　治氏（神戸市社会福祉協議会）
　　津久井　進氏（兵庫県弁護士会所属・日本災害復興学会理事）
５　目　的：被災地の今を知り、災害ボランティアとしての心構えや取組みを学び、能登半島地震の現状と支援、ボランティア活動のこれからについて考える場とする。
６　内　容：災害ボランティアとして必要な知識を学び、能登半島地震など実際の災害現場の活動を伺い、起こるであろう災害に対処する術を考える。
７　アンケートおよび感想より抜粋（回答数：１１）
・災害ボランティアリーダーの資質が問われる
・災害ボランティアの経験はなかったが、台風時の備え、口腔ケアの大切さ、ガレキの話し等、学んだ。また「社会の単身化」についてとても共感した。
・一人ひとりの事情に寄り添った対応が大切であることがわかった。
・社会的処方も話題になり勉強になった。
・ボランティア活動のハードルがますます高くなっている時代かと思う。人材教育・育成が現状の状態でボランティア活動の先行きは不透明になった。“ボランティア”の語源の見直しが必要かと感じた。
・大切な視点をたくさん得ることができた。明石市に持ち帰って活かそうと思う。
・相手に寄り添うベースが重要だと再確認。生きていくモチベーションを個人個人で持たせることに共感。
・今回、初めて社会福祉協議会との共催となったことうれしく思った。「皆さんの想いがいつかだれかの運命に繋がっています」というのが大きな励みになった。
・長年の積み重ねで、この災害時対応研修に参加でき感謝です。
・基本的姿勢を得ることができた。
・それぞれの立場で考える機会が充分あったと思う。長谷部さんの熱量、津久井先生の柔らかさに圧倒された時間で楽しかった。一歩踏み出したいと思う。

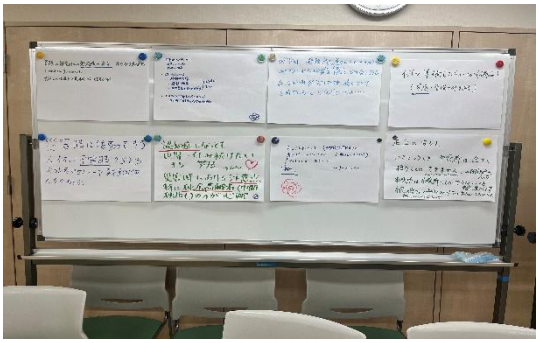
８　振り返り

・災害ボランティアとは、頼まれた役割だけではなく、周りとの連携が大切。事例からボランティアでの役割の活動でも被災者に寄り添い、支援することが大切だと学んだ。

・災害ボランティアの心構え「泥を見ないで人をみる　被災地にガレキは無い。誰かの財産や思い出のつまったもの」が寄り添うということだと感じた。

・被災地は時間の経過とともに必要となる支援も変化していくため、行政や社協、中間支援団体が支援の方法を連携し考える場が必要と感じた。

・前年度の学んだ社会的処方も、災害ボランティアとも関連し大切なことと感じた。

・芦屋市だけでなく市外からの参加もあり、参加者同士のつながりができ、災害時に関する情報など共有できる機会となった。

・今回テーマの中にリーダー養成も含んだことで、ボランティアのハードルが高く感じられ、参加者が少なかったのではないかと感じた。災害ボランティアの取組みを色々な方法で伝える場を発信し、災害ボランティアに興味をもってもらえる場を増やしていきたい。